

第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

橋本市立高野口小学校 西村 文成

1. 単元名 「文化財の中で学ぶわたしたち ～地域の思いを未来へ～」

2. 単元の目標

- 自分たちのまちに残る「いいもの（宝物）」をインターネットや資料を活用して探し出し、それをつくった人や残してきた人、地域の人々の願いに気づくことができる。（知識・技能）
- まちに残る「いいもの（宝物）」についてまとめたり、その価値について考えたりすることができる。（思考・判断・表現）
- まちに残る「いいもの（宝物）」について調べ、自分たちにできることを考え、伝えることができる。（主体的に学習に取り組む態度）

3. 単元について

（1）教材観

橋本市高野口町地域には、古い木造建築の文化財が比較的多くある。その一つである高野口小学校は、文化財として登録されている建築物でありながら、現在も実際に使用されている。本校は、昭和の初期、台風による被害から、当時の最高建築技術で再建築された木造校舎である。20年ほど前には、校舎建て替えの話が浮上したが、価値ある木造校舎を残しておきたいという地域住民の願いもあり、建て替えではなく、改修という形で木造校舎が保存されることとなった。そんな地域の宝物である小学校に通う子供たちに、その価値や地域の人々の思いや願いを知ってほしい。それだけでなく、子供たちが地域の人々の思いや願いをしっかりと受け止め、伝えていく存在となってほしい。

また、本校には児童の父母、祖父母と三世代にわたりこの地域に住み続けている方々が多くいる。そのことをいかし、児童自身が、聞き取りによる調べ学習をすることができる。それに加え、木造校舎を残すために運動した熱い思いをもった地域住民や、地域に住む見守り隊の方々も学校教育に協力的であるため、地域の「いいもの（宝物）」に対しての思いや願いを聞かせていただけると考えている。

以上のことから、地域の方々の思いを受け継ぎ、SDGs「11 住み続けられるまちづくりを」の達成を目指す授業となると思われる。

（2）児童観

本校の児童は、何事にもまじめに取り組むことができる。また、よく気がつき、友達同士や教師を問わず困っているようなことがあれば進んで手を差し伸べることができる。温かい言葉かけができたり、人懐っこい面があったりもする。それに対して、授業中は自分の考えを積極的に発表できない児童も半数近くいる。協働的な学習を進めてきた中で、小グループの中では徐々に考えを伝えられるようになってきている。地域の「いいもの」について協働的に学ぶことで、自分たちの学校

や地域を愛し、大切にしていこうという思いが育つ。そのことで自己肯定感を高めたり、積極性を伸ばしたりできると考えている。

(3) 指導観

指導に当たっては、子供たちの身近な事柄であることを重視して取り上げ、興味関心をもたせたい。そして、自分たちのまちを「いいもの（宝物）」であふれる素敵な街にしていく一員として自覚を高められればと考えている。現在、子供たちが使っている校舎が「文化財」に登録されていることを知って、その役割と価値に気づかせていくことで、改めて大切にしようという気持ちが育成される。地域の人々の思いや願いを知ることで、今まで以上に木造校舎への思い、地域への思いが強められると考えている。そして、SDGs「11 住み続けられるまちづくりを」にもつながっていくことが期待できる。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

有限性・・・地域に残るさまざまな「いいもの（宝物）」も、何もしなければなくなっていってしまう。

連携性・・・一人ではできないことも、同じ志をもった人同士で協力すれば大きなこともできる。

責任性・・・「いいもの（宝物）」を残すためには、人任せにしないで自分から行動することが大事である。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

他者と協力する態度

「自分一人がやっても」と思わず、多くの人力を借りながら行動することができる。

つながりを尊重する態度

地域の人々の思いを知って、その思いを受け継ぎ、自分たちにできるまちづくりについて意見交流を通して、人とのつながりが豊かな生活につながっているということを自覚し、尊重しようとする。

進んで参加する態度

自分にできることはないかと考え、意欲的に関わりをもとうとすることができる。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正

大切に受け継がれてきた「いいもの（宝物）」は、次の世代へきちんと引き継いでいくことが大切である。

・達成が期待されるSDGs

11 住み続けられるまちづくりを



4. 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
① インターネットや図書館を活用して課題について調べている。 ② 地域の「いいもの（宝物）」を知ることで、その良さや魅力について理解している。 ③ 地域の人々の思いや願いに気づいている。	① 必要な情報を集め、わかりやすくまとめている。 ② よりよいまちづくりのために自分たちにできることを考え、課題を設定している。 ③ 集めた情報を整理・分析しながら具体的な活動計画を考えている。 ④ よりよいまちづくりのために自分たちにできることを考え、提案している。	① よりよいまちづくりに関心を持ち、進んで調べたり、考えたりしようとしている。 ② 地域の人々の思いや願いを基に、自分にできることを考えている。 ③ 学習を通して感じたことや、友達の提案をいかし、自分にできることを考え、取り組もうとしている。

5. 単元の指導計画（全10時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	○地域に残る「いいもの（宝物）」を探そう。（2時間） 見 ・地域に残る「いいもの（宝物）」について出し合おう。 つ ・地域に残る「いいもの（宝物）」って め 何か調べる。 る ・地域に残る「いいもの（宝物）」を見学し、その特徴について考える	・見学できそうなところ（葛城館）に行くことでその魅力を感じとれるように支援する。	△ア① △ウ①
「いいもの（宝物）」を残すために、わたしたちは何をしなければならないのだろうか？			
2	○「文化財」について調べよう（3時間） 調 ・「文化財」は、どうやって登録される べ る ・「文化財」に登録されているものを調べてみる ・葛城館は、どうして文化財になったのか調べてみる ・葛城館は、JR 和歌山線高野口駅前に	・地域のことを良く知る方に来ていただき、その思いを伝えてもらう。 	△ア② △イ①② △ウ①②

	<p>建つ木造三階建ての旅館建築であり、明治時代後期の建築と推定されていることを調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高野口小学校も「文化財」に登録されていることを知る。 ・高野口小学校は、国指定の重要文化財であり、戦前期の木造校舎建築の到達点であることを知る。 ・震災や台風にも強い造りになっていて、周りは石垣に囲まれていることに気づく。 	<p style="text-align: center;">葛城館</p>  <p style="text-align: center;">高野口小学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の沿革史を資料として与える。 	
<p>3 深める</p>	<p>○「文化財」について考える。(2時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化財について調べて分かったことを出し合い、その役割について気づく。 ・「文化財」に登録することでいいものを守っていけることに気づく。 ・古いものの中にも価値があること、人々の思いに気づく。 ・「文化財」に登録することでみんなにその良さに気づいてもらえる。 ・今も使っているものが、文化財になることもある。 ・「いいもの(宝物)」を「文化財」にして残していきたいという人々の熱い思いを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの小学校も大切にしなければならないことに気づかせる。 ・町の人たちの古くて「いいもの(宝物)」に対する思いについて考えさせる。 ・多くの人に知ってもらう方法について考えさせる。 	<p>△ア③ △イ③ △ウ①②</p>
<p>4 伝える</p>	<p>○「いいもの(宝物)」を残すために、私たちは何をしなければならないのかを考え、行動する。(3時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習してきたことをまとめる。 ・自分たちにできることを出し合う。 ・身近な人や地域住民に、自分たちの思い、これからも取り組むこと(決意表明)を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何もしなければどうなるかを想像させることで先人の熱い思いに気づかせる。 ・「いいもの(宝物)」がなくなったら、思い出を語ることしかできないが、存在していることが素晴らしいことに気づかせる。 	<p>△イ③④ △ウ②③</p>